定例会資料：報告(3)
令和８年９月２４日
教　育　研　究　所

令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

調査概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に、平成19年度から継続して実施してきました。

今年度の調査は、令和８年４月23日に国語、算数・数学の教科に関する調査、令和８年４月20日～４月23日の期間に中学校英語（「読むこと」「書くこと」「聞くこと」）の教科に関する調査、令和８年４月24日～５月29日の期間に中学校英語（「話すこと」）の教科に関する調査が行われました。また、生活習慣や学習環境等についての質問調査は、小学校が令和８年４月24日から５月８日までの期間に、中学校が令和８年４月20日から４月23日までの期間に行われました。

本市調査結果の概要

【教科調査の概要「全般」】

・小学校６年生2,045名、中学校３年生1,871名が参加しました。
・小学校国語、算数の内容や領域ごとの平均正答率は、算数の「図形」を除き、全国平均を上回りました。
・中学校国語、数学の内容や領域ごとの平均正答率は、全ての領域で全国平均を上回りました。
・中学校英語（４技能）のＩＲＴスコア（※）は全国平均を下回りました。
・無解答率は、小学校では、算数の２問を除き、全国平均を下回りました。中学校では、英語の９問を除き、全国平均を下回りました。

※ＩＲＴスコア･･･ＩＲＴに基づいて学力を推定し、500を基準にした得点で表したもの

【教科調査の概要「国語」】

・小学校では、「みじかｰい（短い）」を漢字で書く問題の正答率は87％、文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く問題の正答率は82％でした。
・集めた情報から抜き出して考えが伝わるように書く問題の正答率は39％、構成メモをもとに撮影した動画の工夫として適切なものを選択する問題の正答率は55％でした。引用したり資料を活用したりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられます。
・中学校では、書き手の気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く問題の正答率は95％、述語に「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する問題の正答率は87％でした。
・指定語句と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題の正答率は41％、擬態語が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題の正答率は41％でした。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味をとらえることや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「算数・数学」】

・小学校では、３枚の数字のカードを用いて、一番大きい小数をつくる問題の正答率は95％、示された情報をもとに、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求める問題の正答率は78％でした。
・二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題の正答率は18％、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選択する問題の正答率は34％でした。データを二つの観点から分類整理することや、問題場面から基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえることに課題があると考えられます。

令和８年度全国学力・学習状況調査における秋田市の結果について

・中学校では、正の数と負の数を用いて最高気温と最低気温の差を求める問題の正答率は87％、箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選択する問題の正答率は79％でした。
・二つの数量の関係を既習の関数とみなし、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率は34％、二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する問題の正答率は37％でした。数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を度数分布多角形の特徴をもとに説明することに課題があると考えられます。

【教科調査の概要「英語」】

・英語による案内放送を聞き、目的の場所を選択する問題（難易度３）の正答率は81％、メール文を読み、最も適切な時刻を選択する問題（難易度３）の正答率は74％でした。
・テーマを取り上げ、その考えと理由を話す問題（難易度５）の正答率は14％、インターネットの使用についての英文を読み、自分の考えとその理由を書く問題（難易度５）の正答率は24％でした。日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことや、社会的な話題について、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書くことに課題があると考えられます。

【児童生徒質問調査の概要】

〔**自分自身について**〕
・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自分自身のよさを知り、向上心を持って生活している子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

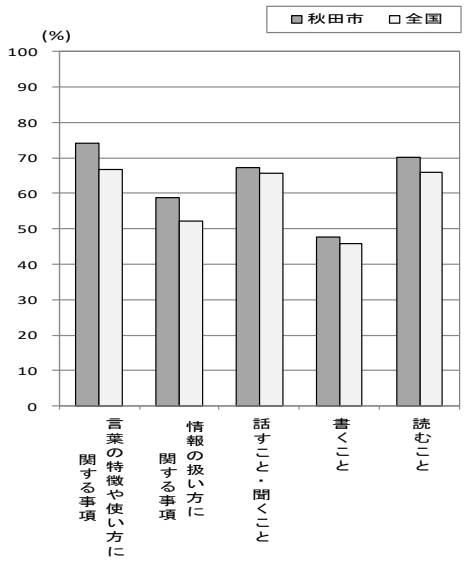
〔**人との関わりについて**〕
・「人が困っているときは、進んで助けている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「友達関係に満足している」など、学校生活等において友だちや先生と良好に関わっている子どもの割合は、小学生では全国平均と同じ値または上回り、中学生では全国平均を上回りました。

〔**学習について**〕
・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている」など、主体的に学習活動に取り組んでいる子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。
・「前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、週１回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を下回りました。

〔**家庭生活について**〕
・「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」など、基本的な生活習慣や、家庭での学習習慣を身に付けている子どもの割合は、小学生・中学生共に全国平均を上回っています。

小学校国語　領域ごとの調査結果の主な特徴　【令和8年度】

平均正答率



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞　問題 1 2 3

○「みじかい（短い）」を漢字で書く問題の正答率は87％でした。文章の書き方にどのような特徴があるのか適切なものを選択する問題の正答率は80％でした。

●「ふしぎ（不思議）」を漢字で書く問題の正答率は58％でした。漢字の意味を考えて使うことや、漢字の由来や特質などについて理解することに課題があると考えられます。

＜情報の扱い方に関する事項＞　問題 2 3

●文章を具体的に説明するために続く文として適切なものを選択する問題の正答率は55％でした。考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題があると考えられます。

＜話すこと・聞くこと＞　問題 1

○休み時間の過ごし方を紹介する動画の構成メモの工夫として適切なものを選択する問題の正答率は78％でした。

●構成メモをもとに撮影した動画の工夫として適切なものを選択する問題の正答率は55％でした。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があると考えられます。

＜書くこと＞　問題 2

●集めた情報から抜き出して考えが伝わるように書く問題の正答率は39％でした。引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

四　2　花山さんは、**【集めた情報】**をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを**【花山さんの文章の続き】**に書いています。**あなたが花山さんなら、□**に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

○ **【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。**

○ **ぬき出した本の題名と本文の一部の内容は、かぎかっこ（「　」）でくくること。**

○ **ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。**

○ **百四十字以内にまとめて書くこと。**

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、□

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

※正答例は、紙面の関係で省略します。

＜読むこと＞　問題 3

○文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く問題の正答率は82％でした。

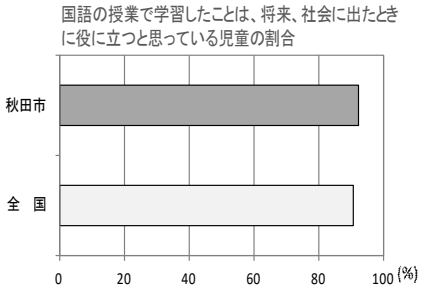
●話合いの様子を読み、文章の事例を自分に置き換えた内容として適切なものを選択する問題の正答率は59％でした。目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題があると考えられます。

質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は得意だ」と回答した児童の割合は65％で、全国平均を５ポイント上回っています。

「国語の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は62％で、全国平均を５ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は92％で、全国平均を２ポイント上回っています。



小学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、音読や朗読する力、自分の考えを分かりやすく話す力、互いの立場や意図を明確にしながら話し合う力など、音声による表現力があります。

各校では、話合いの場面において、ＩＣＴ機器を活用して意見を可視化したり、多様な考えに触れられるよう学習形態を工夫したりしており、子どもたちは意欲的に学習に臨んでいます。また、詩歌や物語、説明する文章の音読を通して、言葉や表現の持つ意味を確かめたり、場面を想像したりするなど、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえ、自分の考えをまとめることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、同音異義語の語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動を取り入れるなど、字義の理解や漢字を使うことのよさを実感できるような指導の充実を図ります。

「情報の扱い方に関する事項」では、教師や友達と交流したり、読み手の立場に立って振り返ったりする活動を取り入れるなど、考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるような指導の充実を図ります。

「話すこと・聞くこと」については、説明の補足や伝えたいことの強調等、資料の活用による効果を考える活動を設定するなど、自分の考えを伝えるために工夫して話すことができるような指導の充実を図ります。

「書くこと」については、自分の考えが伝わるように引用して書いている文章と、引用して書いていない文章を読み比べる活動を設定するなど、引用する目的を自覚できるような指導の充実を図ります。

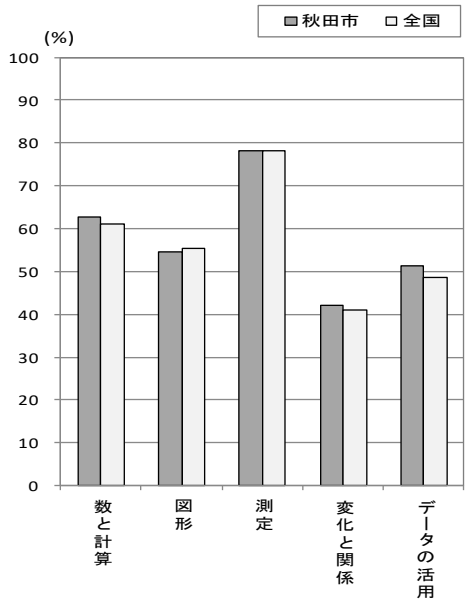
「読むこと」については、文章を読んで理解したことをもとに、筆者が挙げている事例を自分の経験に置き換えて考える活動を設定するなど、目的に応じて、必要な情報を見付けることができるような指導の充実を図ります。

＜本調査では測れない学力の状況から＞

聞く視点を明確にした上で話の内容を聞き取ったり、話し手の考えと自分の考えとを比較したりする活動を設定するなど、目的や意図に応じて話の内容をとらえ、自分の考えをまとめることができるような指導の充実を図ります。

小学校算数　領域ごとの調査結果の主な特徴　【令和8年度】

平均正答率



＜数と計算＞　問題 1 2 3 4

○１、５、９の３枚のカードを当てはめて一番大きい小数をつくる問題の正答率は95％でした。

●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題の正答率は51％でした。数を構成する単位に着目し、数の相等および大小関係について考察することに課題があると考えられます。

＜図形＞　問題 1

●１㎤の立方体を36個使ってできた直方体の体積を求める問題の正答率は41％でした。体積は単位体積の立方体のいくつ分で表すことができることの理解に課題があると考えられます。

＜測定、変化と関係＞　問題 2 4

○昔遊びの計画をもとに、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間を求める問題の正答率は78％でした。

●赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になってる図を二つ選択する問題の正答率は34％でした。問題場面から基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえることに課題があると考えられます。

＜データの活用＞　問題 1 4

○１年生に「交流会ではどんなことがうれしかったか」についてアンケートをとり、まとめた帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」と回答した人の割合は、全体の約何％かを選択する問題の正答率は77％でした。

●前半と後半の昔遊びに参加する人数をまとめた二次元の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率は18％でした。データを二つの観点で分類整理する方法の理解に課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 4

(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する１年生の人数を表にまとめました。

さくらさんたちは、あやとりに参加する１年生にひもをわたします。

わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半と後半の遊びごとの人数　（人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

前半にあやとりに参加する人数は ㋐人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑人です。

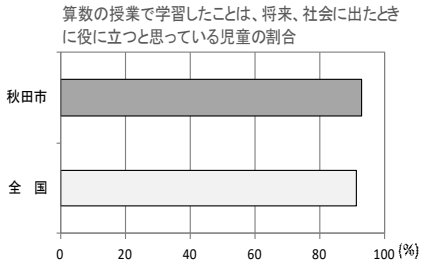
上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。　正答　㋐ 13　㋑ 8

質問調査から「算数の学習について」

「算数の勉強は得意だ」と回答した児童の割合は59％で、全国平均を１ポイント下回っています。

「算数の勉強は好きだ」と回答した児童の割合は58％で、全国平均と同じ割合となっています。

「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は93％で、全国平均を２ポイント上回っています。



小学校算数「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、子どものつぶやきや反応をもとに課題を設定したり、問題解決の見通しを持つ場を取り入れたりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、問題解決の過程を具体物や図を用いて分かりやすく表現しようと試みたり、自分の考えをペアやグループで説明し合ったりするなど、主体的に考え、学び合う子どもの姿が見られます。

一方、自分の考えを筋道を立てて説明することや、考えを共有する場面で思考を広げたり、深めたりすることが十分ではない子どもの姿が見られます。

学習指導改善のための今後の方策

＜調査結果から＞

「数と計算」では、分数の意味や表し方に基づいて、異分母の分数の大小を判断できるように、分数を小数や数直線で表すなど、いくつかの方法で分数の大小を比べる活動の充実を図ります。

「図形」では、体積の意味を理解するために、ブロック等の具体物を使って体積を比較したり立体を作ったりするなど、単位の大きさをもとに体積をとらえる活動の充実を図ります。

「変化と関係」では、示された基準量と割合から比較量をとらえることができるように、示された基準量に対して、様々な比較量がどれだけに当たるかを、図を通して考える活動の充実を図ります。

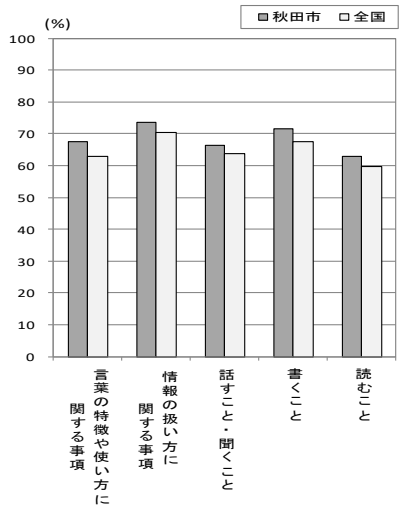
「データの活用」では、目的に応じて二次元の表を作成したり、表から必要な数値を読み取ったりする活動の充実を図ります。

＜本調査では測れない学力の状況から＞

図、式、言葉などを用いて自分の考えをまとめたり、互いの考えを伝え合ったりするなど、思考の過程を筋道を立てて説明する活動の充実を図ります。また、考え方の共通点や相違点に注目しながら比較・検討したり、既習事項と関連付けて考えたりできるような手立てを講じるなど、子どもたちの学びが一層深まるような指導の充実を図ります。

中学校国語　領域ごとの調査結果の主な特徴　【令和8年度】

平均正答率



＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞　問題 1 3 4

○述語に「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する問題の正答率は87%でした。

●国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題の正答率は41%でした。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味をとらえることに課題があると考えられます。

＜情報の扱い方に関する事項＞　問題 2

○話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は74%でした。

＜話すこと・聞くこと＞　問題 2

○話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は74%でした。

●話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く問題の正答率は54%でした。話合いの展開に応じて、互いの立場や考え方を結び付けたり、話し合った内容を踏まえて述べたりすることに課題があると考えられます。

＜書くこと＞　問題 3

○書き手の気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く問題の正答率は95%でした。

●書いた文章について、交流場面をもとにして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く問題の正答率は51%でした。表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題があると考えられます。

＜読むこと＞　問題 4

○文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する問題の正答率は76%でした。

●二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題の正答率は41%でした。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】

四 4　林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、**〈具体的な場面〉**を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、**〈例文1〉**と**〈例文2〉**を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

〈例文1〉〈擬態語を使っていない例文〉

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」**生徒**は言った。

〈例文2〉〈擬態語を使った例文〉

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」**生徒**はきっぱりと言った。

条件1　**〈例文2〉**の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2　**条件1**で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

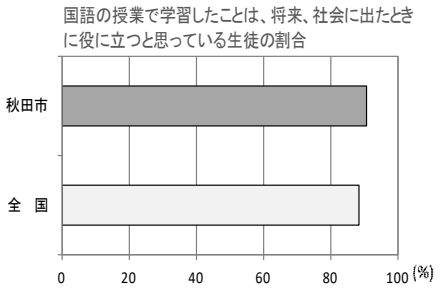
※正答例は、紙面の関係で省略します。

質問調査から「国語の学習について」

「国語の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は57％で、全国平均を５ポイント上回っています。

「国語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は62％で、全国平均を５ポイント上回っています。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は91％で、全国平均を３ポイント上回っています。



中学校国語「本調査(ペーパーテスト)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、音読や朗読する力、自分の考えを分かりやすく話す力、話題や展開をとらえながら話し合う力など、音声による表現力があります。

各校では、教材の提示の仕方を工夫したり、考えるための視点を明示したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、詩歌や物語、古典を音読し、場面の様子を思い浮かべたり、作者の思いにふれたりするなど、表現する楽しさを味わいながら学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、話合いにおいて、話題や展開に沿って自分の意見を述べたり、質問したりすることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

＜調査結果から＞

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、着目した語句と文章中の他の語句との関係を考える活動を取り入れるなど、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味をとらえることができるような指導の充実を図ります。

「話すこと・聞くこと」については、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりする活動を設定するなど、互いの立場や考えを尊重しながら結論を導くことができるような指導の充実を図ります。

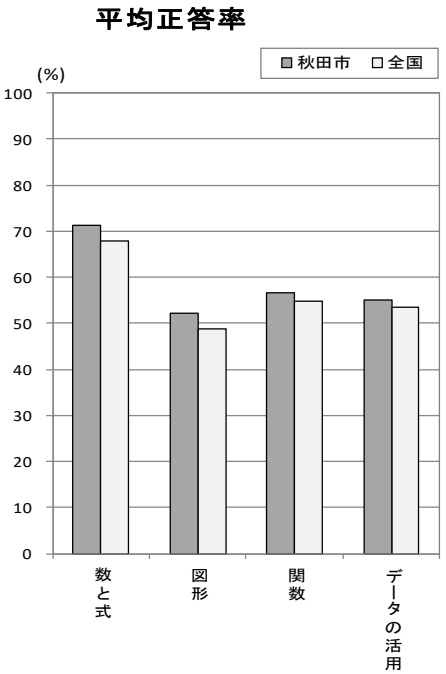
「書くこと」については、書き終えた文章について、読み手からの感想や助言をもとに自分の文章を振り返る活動を設定するなど、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導の充実を図ります。

「読むこと」については、「考えの形成、共有」の学習過程において、それまでに自分が文章の構造や内容をどのようにとらえ、精査・解釈したのかを振り返る活動を設定するなど、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるような指導の充実を図ります。

＜本調査では測れない学力の状況から＞

話合いの目的や進め方について確認したり、意見や質問など発言の内容について振り返ったりする活動を設定するなど、話題や展開をとらえながら話し合う力を高める指導の充実を図ります。

中学校数学　領域ごとの調査結果の主な特徴　【令和8年度】



＜数と式＞　問題 1 2 6

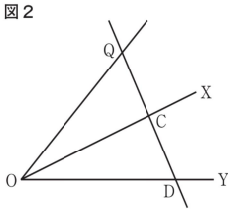
○２月３日のＡ市の最高気温（正の数）が最低気温（負の数）より何℃高いかを求める問題の正答率は87％でした。

●手順にしたがってできた自然数ＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する問題の正答率は49％でした。統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられます。

＜図形＞　問題 3 8

●図２において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選択する問題の正答率は42％でした。具体的な事象をもとに、証明する事柄の仮定を見いだすことに課題があると考えられます。

図2

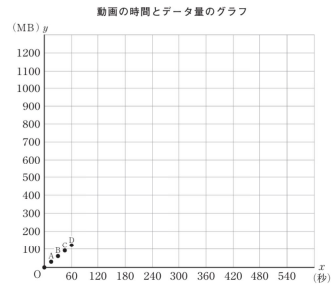


＜関数＞　問題 4 7

●動画の時間とデータ量のグラフから、データの量が1000ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する問題の正答率は34％でした。数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 7

(2) 光希さんは、１０００ＭＢのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Ｏから点Ｄまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x座標やy座標、xの値やyの値など、xやyを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

正答例 **原点Ｏから点Ｄをもとに、直線のグラフをかき、ｙ座標が1000のときのｘ座標を読む。**

＜データの活用＞　問題 5 9

○学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選択する問題の正答率は79％でした。

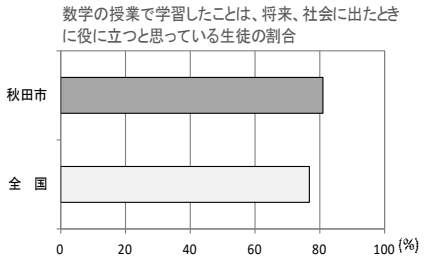
●「就寝時間が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と判断できる理由を、二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する問題の正答率は37％でした。データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を度数分布多角形の特徴をもとに説明することに課題があると考えられます。

質問調査から「数学の学習について」

「数学の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は49％で、全国平均と同じ割合となっています。

「数学の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は62％で、全国平均を６ポイント上回っています。

「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は81％で、全国平均を４ポイント上回っています。



中学校数学「本調査(ﾍﾟｰﾊﾟｰﾃｽﾄ)では測れない学力の状況」

本調査（ペーパーテスト）では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に関するものや、自分の考えを伝える力、相手の考えを聞き取る力などがあります。

各校では、実生活と関連した課題を提示したり、学習形態や発問を工夫したりしており、子どもたちは意欲を持って学習に臨んでいます。また、ＩＣＴ機器を活用した操作活動を通して理解を深めたり、話合い活動を通して友達の考えを取り入れ、よりよい考え方につなげたりするなど、主体的に学習活動に取り組む子どもの姿が見られます。

一方、問題解決の過程や結果をもとに新たな課題を見いだし考察することなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

＜調査結果から＞

「数と式」では、元の問題を解決した過程や結果を振り返りながら、具体的な数や文字を用いることで成り立つ事柄を予想し、その事柄の特徴を数学的に説明する活動の充実を図ります。

「図形」では、図形の性質を証明する場面において、与えられた条件や示された図から証明する事柄の仮定と結論を明らかにし、数学的に表現できるような活動の充実を図ります。

「関数」では、問題を解決するために、表や式、グラフなどをどのように用いたのかについて考え､数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

「データの活用」では、データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実を図ります。

＜本調査では測れない学力の状況から＞

多様な考えを価値付け、比較・検討する場や、問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察する活動の充実を図ります。

令和８年度全国学力・学習状況調査における中学校英語の調査について

中学校英語の調査の概要

今年度は中学校英語の調査において、１人１台端末を活用したＣＢＴによるオンライン方式で実施されました。今回の中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、４日間に分散して実施され、ネットワークトラブル等も考慮し、予備日も設けられました。「話すこと」調査は、他の調査と比較してのネットワーク負荷が大きく、教室内での実施面の工夫が必要となることから、実施期間を拡大して実施されました。

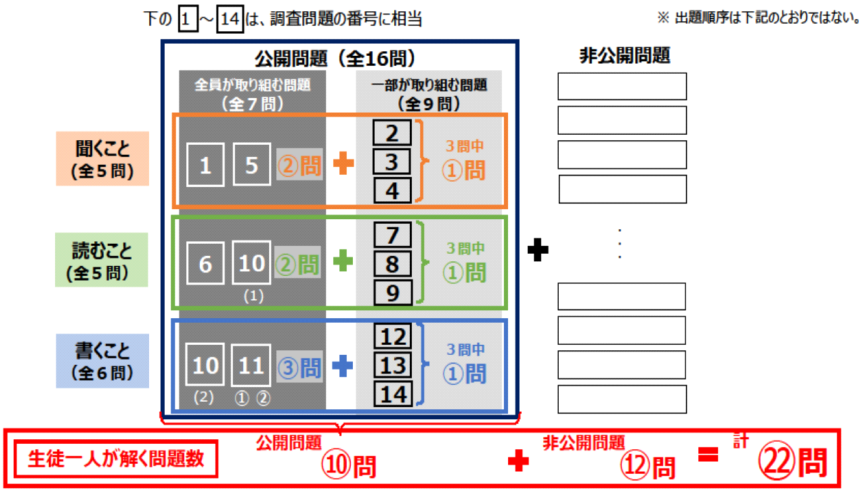
問題の形式は、選択式、短答式（含む口述式）、記述式（含む口述式）の３種類となっており、「聞くこと」の問題の一部において、アニメーションを利用して、音声を聞いた後に選択肢を提示しています。また、全ての領域の問題において、イラストをカラーで示すことで場面や状況が明確になるようにしています。

問題構成は、公開問題と非公開問題を組み合わせた構成となっています。公開問題は調査対象の生徒全員が取り組む問題と一部の生徒が取り組む問題から構成されており、一部の生徒が取り組む問題については、同じ学校でも当該問題に取り組む生徒と取り組まない生徒がいますが、学校の生徒全員で全ての公開問題に取り組む設計となっています。生徒一人が解く問題数は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」合わせて公開問題10問、非公開問題12問、合計22問でした。「話すこと」は公開問題が４問、非公開問題数は示されていません。

中学校英語の調査では、昨年度の中学校理科の調査と同様にＩＲＴを活用した分析が導入されました。中学校英語の調査における秋田市の結果については、問題の正答率に加え難易度も示しています。

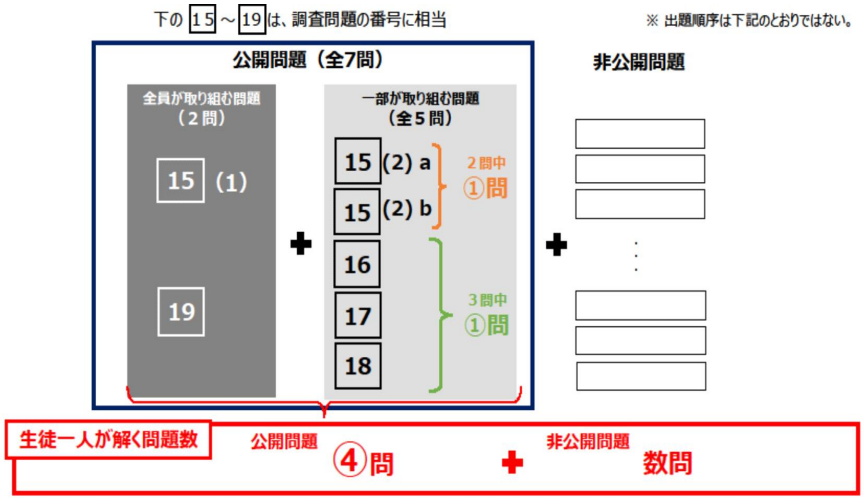
令和8年度中学校英語のCBT問題の構成について

【「聞くこと」「読むこと」「書くこと」】



（出典）文部科学省：令和８年度中学校英語（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）のＣＢＴ問題の構成について

【「話すこと」】



（出典）文部科学省：令和８年度中学校英語（「話すこと」）のＣＢＴ問題の構成について

ＩＲＴを活用したＣＢＴ方式の調査について

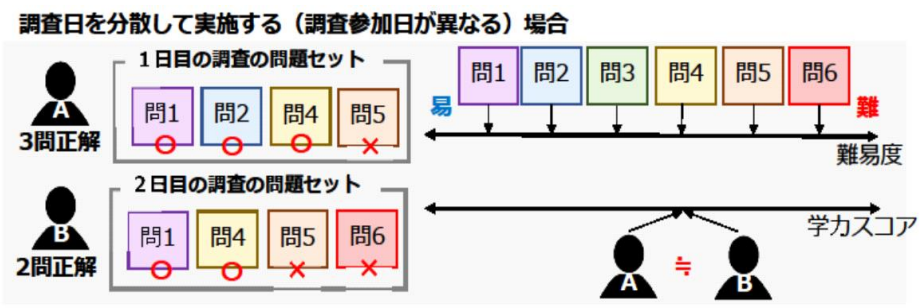
ＣＢＴについて

ＣＢＴ（Computer Based Testing）とは、問題をオンラインで配信し、コンピュータ端末を使用して回答を入力するなどのコンピュータ使用型調査のことであり、全国学力・学習状況調査では、これまで段階的かつ計画的にＣＢＴの導入が進められてきました。令和９年度の調査はＣＢＴに全面移行されます。

ＩＲＴについて

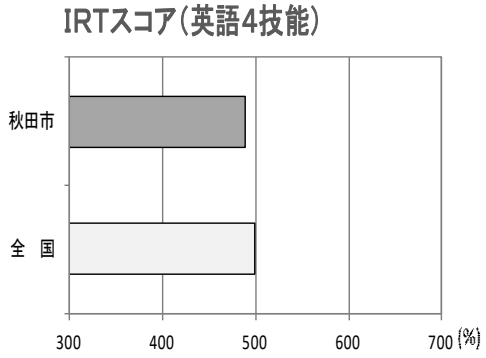
ＩＲＴ（Item Response Theory）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。国では、ＩＲＴに基づく調査のイメージとして、調査日を分散して実施する（調査参加日が異なる）場合を下図のように示しています。この図から分かるように、ＡさんとＢさんは異なる問題セットに解答し、その正答数は異なるが、ＩＲＴに基づいて算出される学力スコアはほぼ同じと推定されます。ＩＲＴを活用することで、何問正解したかという正答率だけでなく、「どのような問題に正解したか」という問題の難易度等を考慮して、子どもの能力値を推定することができます。

ＩＲＴに基づく調査のイメージ



（出典）文部科学省：今後の全国学力・学習上調査のＣＢＴでの実施ついて

中学校英語　領域ごとの調査結果の主な特徴　【令和8年度】



＜聞くこと＞　問題 1 2 3 4 5

○ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する問題（難易度３）の正答率は81％でした。

●職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように選択する問題（難易度４）の正答率は42％でした。時や場面の移り変わりを表す表現を手がかりに、全体としてどのような話のあらましになっているかをとらえることに課題があると考えられます。

＜読むこと＞　問題 6 7 8 9 10(1)

○誕生日パーティーに関するメールを読み､最も適切な時刻を選択する問題(難易度３）の正答率は74％でした。

●物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題（難易度５）の正答率は44％でした。日常的な話題について、まとまりのある文章を読み、書き手が述べていることの大まかな内容をとらえることに課題があると考えられます。

＜書くこと＞　問題 10(2) 11 12 13 14

●インターネットの使用についての英文を読み、自分の考えとその理由を書く問題（難易度５）の正答率は24％、学校で普段行うことを一つ取り上げ、それについての説明を書く問題（難易度４）の正答率は27％でした。社会的な話題について、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書くことや、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題があると考えられます。【問題例参照】

【課題となっている問題例】 10(2)

中学生のまいこ（Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の（１）と（２）の問いに答えなさい。

（２）まいこの質問に対する**「あなたの考え」**と**「なぜそう考えるのか」**を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

※正答例は、紙面の関係で省略します。

＜話すこと＞　問題 15 16 17 18 19

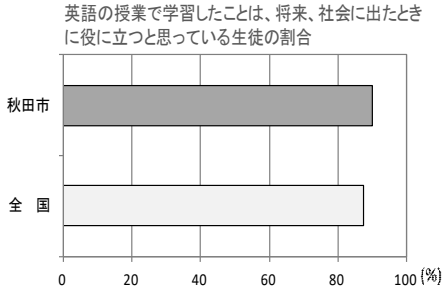
●自分のまちを訪れるには、どの季節がよいかを一つ取り上げ、考えとその理由を話す問題（難易度５）の正答率は14％でした。日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題があると考えられます。

質問調査から「英語の学習について」

「英語の勉強は得意だ」と回答した生徒の割合は39％で、全国平均を１ポイント下回っています。

「英語の勉強は好きだ」と回答した生徒の割合は60％で、全国平均を９ポイント上回っています。

「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した生徒の割合は90％で、全国平均を２ポイント上回っています。



中学校英語「本調査では測れない学力の状況」

本調査では測れない学力として、学習に対する意欲や関心に加え、英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度などがあります。

各校では、単元のゴールを明確にし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、相手に配慮しながら自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図っています。また、ＡＬＴやＩＣＴ機器を効果的に活用した活動を通して、生徒が様々な考えや表現に触れ、自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られます。

一方、事実や考え、気持ちなどについて、伝えたい内容を整理し、既習の語句や表現を活用しながら、目的や相手に応じて分かりやすく伝えることなどについては、十分とは言えない状況にあります。

学習指導改善のための今後の方策

＜調査結果から＞

「聞くこと」については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にし、出来事の順番や話の概要、要点をとらえるために、手がかりとなる語句や表現に着目して聞く活動の充実を図ります。

「読むこと」については、文章全体に目を向け、文と文や段落相互の関係を意識しながら、必要な情報を読み取ったり、概要や要点をとらえたりするなどの目的に応じて読む活動の充実を図ります。

「書くこと」については、目的や相手を意識し、事実や伝えたいこと、気持ちなどを整理し、自分の考えとその理由を明確にしながら、まとまりのある文章を書く活動の充実を図ります。

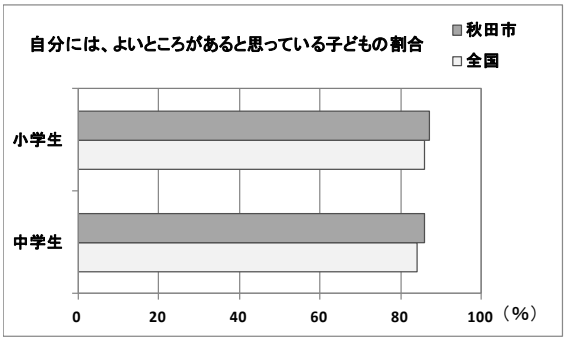
「話すこと」については、生徒が話しやすいテーマで、話したり質問したりする活動を継続的に行うとともに、一つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりするなど、まとまりのある内容を話す活動の充実を図ります。

＜本調査では測れない学力の状況から＞

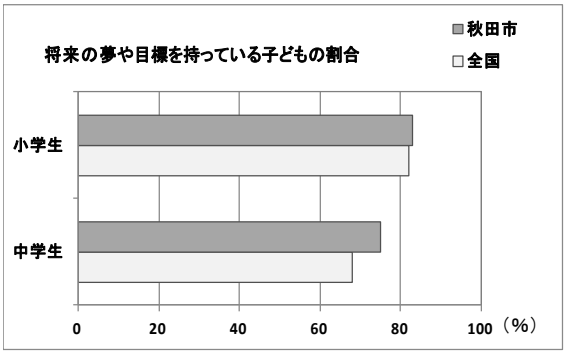
身に付けた知識や技能を実際のコミュニケーションの場面で活用できるよう、相手の発言を受けて質問したり、自分の考えや気持ちを伝えたりする言語活動を設定するなど、即興で伝え合う力を高める指導の充実を図ります。

児童生徒質問調査の結果から【令和８年度】

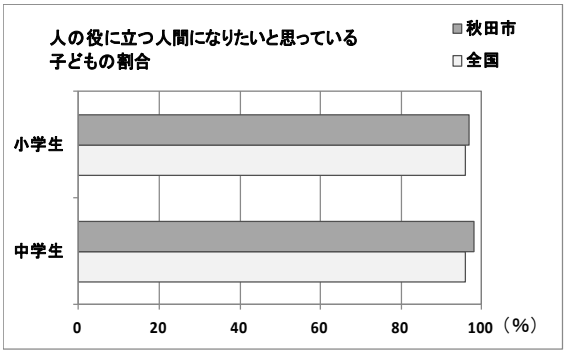
自分自身について



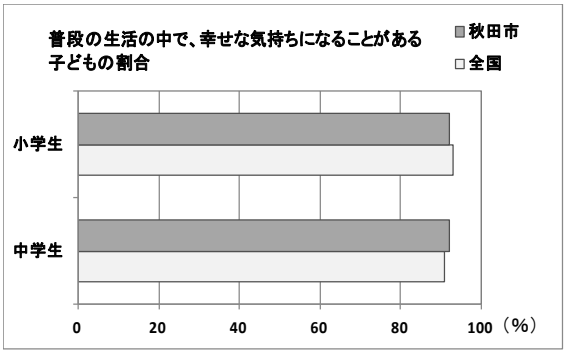
「自分には、よいところがあると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で87%、中学生では86%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生は２ポイント上回っています。



「将来の夢や目標を持っている」と回答した子どもの割合は、小学生で83%、中学生では75%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では７ポイント上回っています。



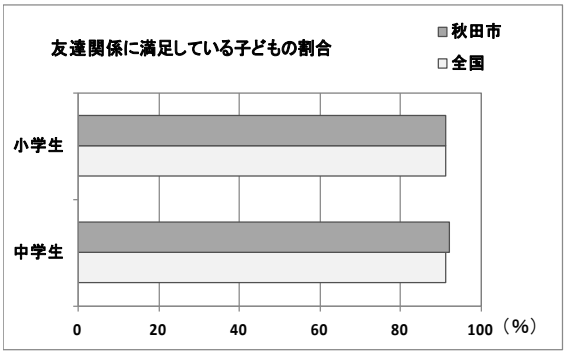
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で97%、中学生では98%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では２ポイント上回っています。



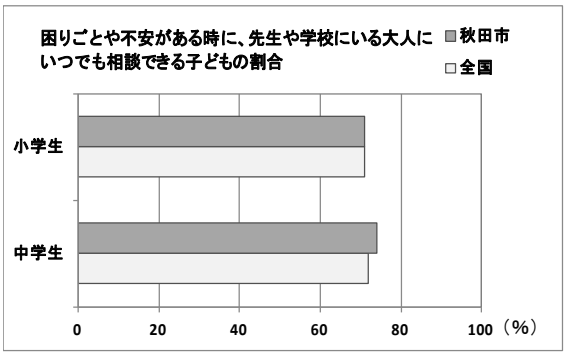
「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に92%となっており、全国平均を小学生は１ポイント下回り、中学生では１ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和８年度】

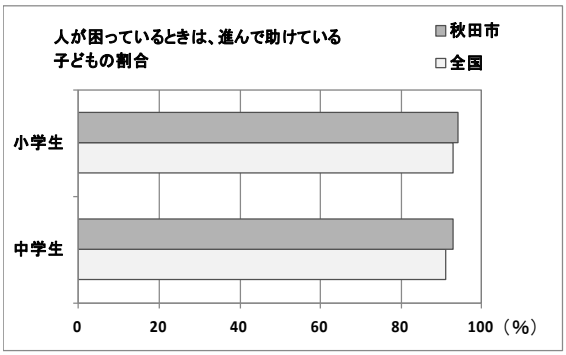
人との関わりについて



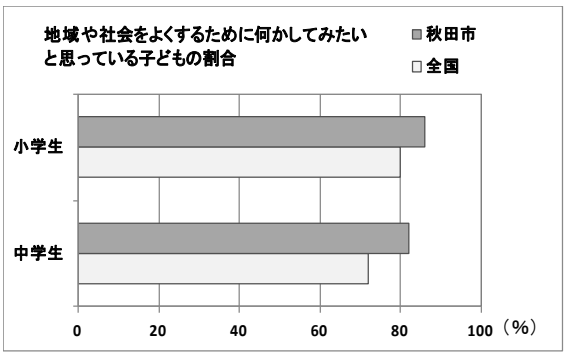
「友達関係に満足している」と回答した子どもの割合は、小学生で91%、中学生では92%となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を１ポイント上回っています。



「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した子どもの割合は、小学生で71%、中学生では74%となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を２ポイント上回っています。



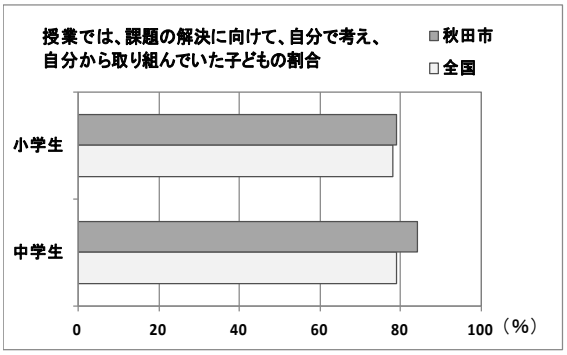
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した子どもの割合は、小学生で94%、中学生では93%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では２ポイント上回っています。



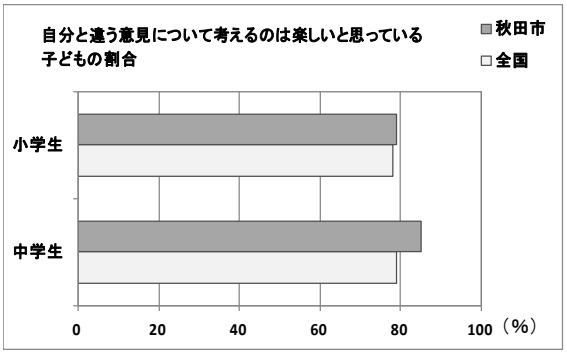
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で86%、中学生では82%となっており、全国平均を小学生は６ポイント、中学生では10ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和８年度】

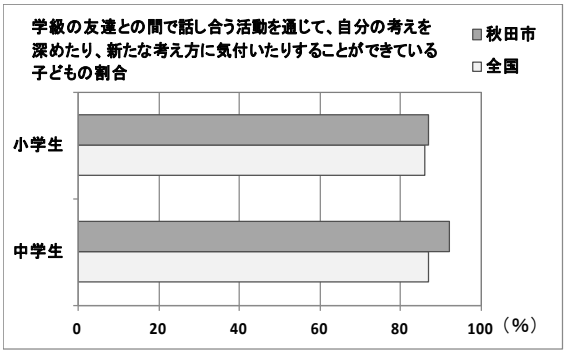
学習について



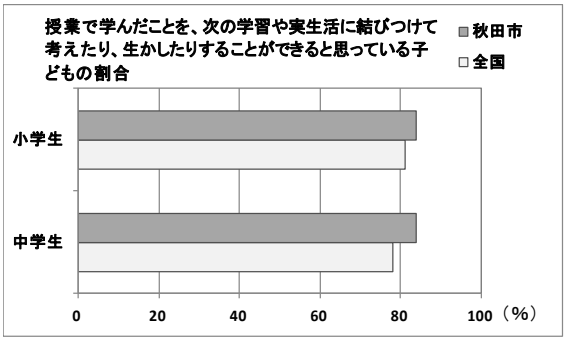
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した子どもの割合は、小学生で79%、中学生では84%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では５ポイント上回っています。



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答した子どもの割合は、小学生で79%、中学生では85%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では６ポイント上回っています。



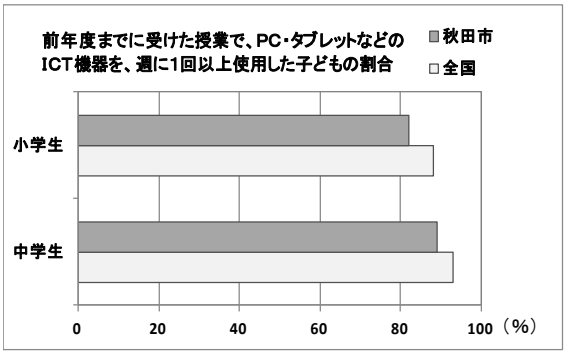
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した子どもの割合は、小学生で87%、中学生では92%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では５ポイント上回っています。



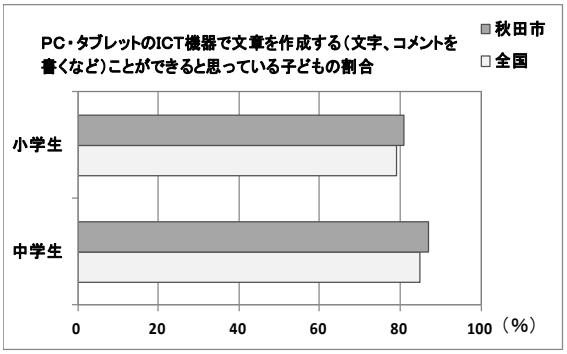
「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生・中学生共に84%となっており、全国平均を小学生は３ポイント、中学生では６ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和８年度】

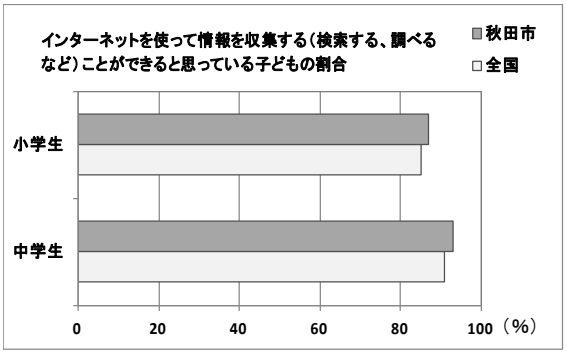
ＩＣＴの活用について



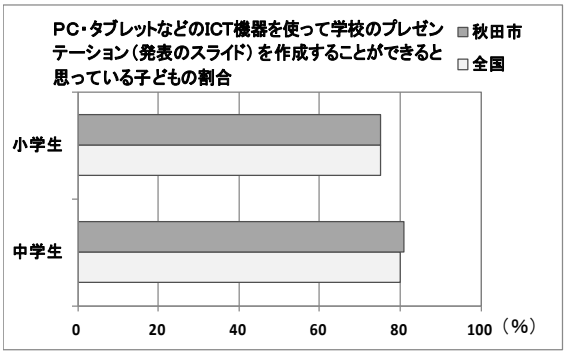
「前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、週１回以上使用した」と回答した子どもの割合は、小学生で82％、中学生では89％となっており、全国平均を小学生は６ポイント、中学生では４ポイント下回っています。



「ＰＣ・タブレットのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で81％、中学生では87％となっており、いずれも全国平均を２ポイント上回っています。



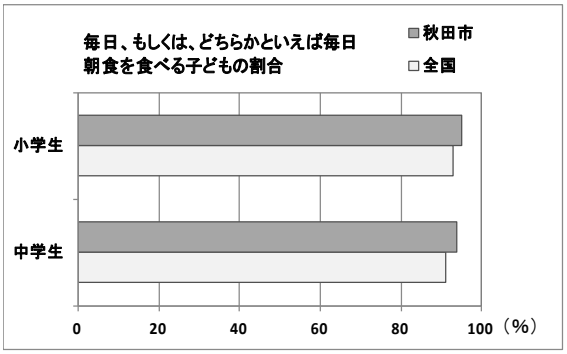
「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で87％、中学生では93％となっており、いずれも全国平均を２ポイント上回っています。



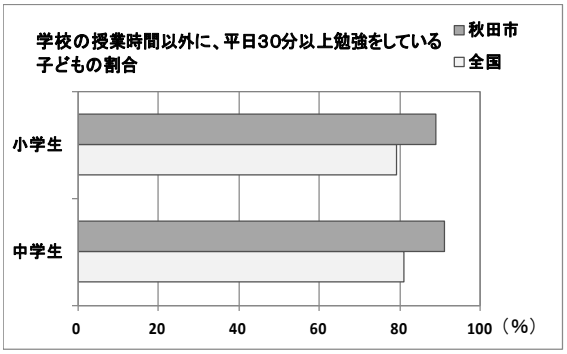
「ＰＣ・タブレットのＩＣＴ機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う」と回答した子どもの割合は、小学生で75％、中学生では81％となっており、小学生は全国平均と同じ割合、中学生では全国平均を１ポイント上回っています。

児童生徒質問調査の結果から【令和８年度】

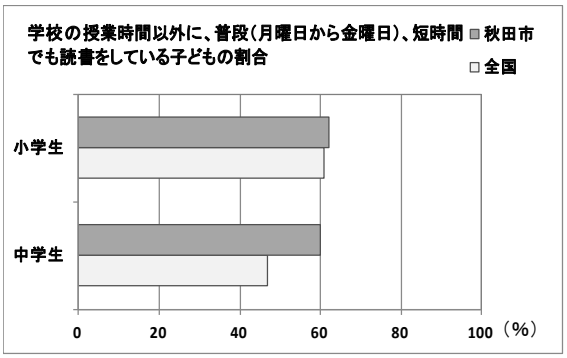
家庭生活について



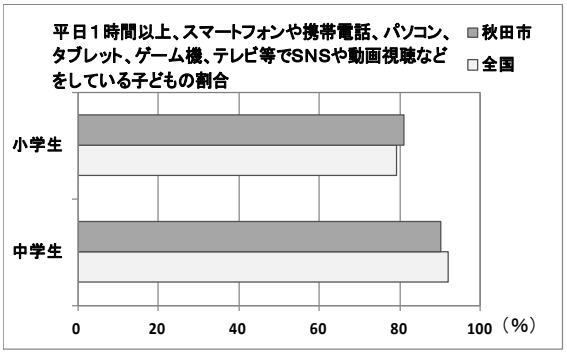
「毎日、もしくは、どちらかといえば毎日朝食を食べている」と回答した子どもの割合は、小学生で95%、中学生では94%となっており、全国平均を小学生は２ポイント、中学生では３ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、平日30分以上勉強をしている」と回答した子どもの割合は、小学生で89%、中学生では91%となっており、いずれも全国平均を10ポイント上回っています。



「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、短時間でも読書をしている（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」と回答した子どもの割合は、小学生で62%、中学生では60%となっており、全国平均を小学生は１ポイント、中学生では13ポイント上回っています。



「平日１時間以上、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でＳＮＳや動画視聴などをしている（学習やゲームをする時間は除く）」と回答した子どもの割合は、小学生で81%、中学生では90%となっており、全国平均を小学生は２ポイント上回り、中学生では２ポイント下回っています。